

職員の皆さんへ

平成 29 年のスタートから早くも一ヶ月が経過しました。

気候的にも穏やかな年末年始を過ぎ、月末には寒波が日本列島を包むという報道があつて、昨年の豪雪と水道管破裂・断水を思い起こしながら市報等を通じて警戒を呼びかけましたが、それほどの寒さに至らず胸をなでおろした次第です。ただし今回はたまたま幸運だったということであり、異常気象が常態化している昨今でありますので引き続き注意喚起や災害対応への心構えに注力してまいりましょう。

さて最近、市民の方々から寄せられるいくつかのお褒めの言葉の中に、平戸城の景観が周囲の雑木を伐採したことによって様変わりしたというのがあります。例えば、「平戸城の石垣まで見えるようになり、威風堂々とした魅力が味わえる」「今までより大きく見えるような感じがして誇らしい」など、まさに平戸市のシンボルとして市民の方々の平戸城への愛着が感じられ、伐採を実施したことへの賞賛の言葉に大変嬉しく思います。そこで、このことからいくつか考えさせられたことを今月のことばにしたいと思います。

まず、「こんなに喜んでもらえるのならもっと早くになぜできなかったのか？」という疑問です。これについての私なりに思いつくのは、覆っていた雑木の生長が長い年月をかけて少しずつであったため、気づきにくかったのではないかということです。誰も急激な変化には気づくものです。しかしそれは伐採をして急に展望が開けたからこそ平戸城の魅力に感動するのと同じように、これまでに少しずつ枝葉を切っていれば、あるいは気づいてもらえなかったかもしれません。

このことから学び取れるのは、少しずつ積もっていくおり澱のようなものには「慣れ」という感覚が邪魔をして気づきにくくなるということです。木々や植物の生長は自然の営みですからこれを否定するものではありません。しかし放っておくといつの日かそれを伐採したり除去したりしなければならなくなる事態が発生し、事柄や物によっては手遅れになることも意識しなければならないということです。

つまり、私たちの業務の中に潜在する少しずつの無駄や悪い癖が、長い年月を通して慣れていくことによって、その積もったものに気づいていないのではないかという観点です。

もう一つは、「では今回、平戸城の本来の魅力が引き出された感動や賞賛をもたらした伐採事業を私たちの通常の業務に例えるとそれは何か？」ということです。私はこれこそ「改革」であると思います。

行政にとって「本来の魅力」とは取りも直さず「市民のためになる業務」であるはずですが、当然のことながら様々な行政課題は「市民生活をいかによいものにするか」という目的に向かっており、そのための知恵や工夫が繰り返され現状に至っていると いえます。しかし時代の流れや価値観の多様化によって、同じ事をずっと続けていても対応できていない状況になっていることなどに常々注意を払わなければならない

のです。それがまさに「少しずつ伸びてきたことに気づきにくい枝葉」なのかもしれません。

「改革」とはそうした無駄や悪い癖などの伸びっぱなしになった枝葉を切り取ることにあります。そしてそれは闇雲に切り刻めばいいというものでもありません。常に視点を市民目線に定めながら、どのようなフォーメーションを取っていくことが「本来の魅力」になるかを整理しなければならないのです。

もっと身近で簡単なことからいうと、執務室で個々人に与えられた机の上の書類や引き出しの中のものにもその視線を注ぎ、無駄な書類の山や使わない雑貨・文具の残骸などが溜まっていませんか？そうしたものが雑然・混在としていることからミスが発生しやすくなりますし、現在ではほとんどパソコン上のデータ監理がなされていることを考えると、必要以上のファイリングも時間と手間をかけることにもなりかねません。つまり整理整頓とは「捨てること」なのです(これは私の経験談でもあります)。

「断捨離^{だんしゃり}」という言葉があります。これは日本人古来の思想として「もったいない」という固定観念に凝り固まったところをヨーガの行法である「断行」「捨行」「離行」を応用して、「入ってくるいらぬ物を断つ」「ずっとあるいらぬ物を捨てる」「物への執着から離れる」ことによって自身で作り出している重荷からの解放を図り身軽で快適な生活と人生を手に入れることが目的であるとしています。

(やましたひでこ 2012年・主婦の友社)

現在、総務部では機構改革を進めておりますが、これは「子ども課」を新たに本庁舎内に増設することを主眼に置いています。他の機構については実態に応じた名称変更や専門部署の増設ですが、本庁舎内に新たに人員が増えるのは「子ども課」の設置があるからです。

新たに人員と機能を受け入れることはその分、市役所内が窮屈になることは当然なので、そこをどのように配分し譲り合うかが課題です。その際、「他の部局のことは関係ない」と切り捨てるのではなく、「自分たちは何ができるか」という観点に立って、そして最優先すべきは「市民の利便性とどう向き合うか」だと思えます。そうした行政にとっての「本来の魅力」を磨き上げるために、垣根を越えた譲り合い助け合いのチームワークで円滑な改革実現に取り組んでまいりましょう。

先月末までの予算編成作業を経ながら、平戸市総合戦略はさらに加速化されています。他の自治体にはない平戸市の独自性を活かし、いかにしてずっと住みたくなるまちづくりを進めていくかが問われているのです。

今後のスケジュールについても予算議会である3月定例会市議会を目前に各課それぞれ慌しいことと思えます。予算査定を経て上程する事業や新しく策定する条例などをさらに精査し、説明責任を果たせるよう綿密な準備をしてください。

いま全国的にインフルエンザが広がる懸念がニュースになっています。

私どもの使命の一つに市民の皆様の健康な生活を守ることも最優先の課題であり、

そのためには先ずわれわれ自身が健康に注意してこうした疾病の予防や感染防止に心掛けなければなりません。お互いに心身ともに快適なコンディションを保ちながら、ベストを尽くして頑張ってください。

皆様のご奮闘に期待します。

平成 29 年 2 月 1 日

平戸市長 黒田 成彦